

頭部MRI・MRA・頸動脈超音波検査を 受診された方へ

下記の通り、結果説明のご案内をさせて頂いております。

予約制となりますので、健診センターまでお問い合わせください。

今回の判定が

- ・「C」または「3」の方：ご希望により結果説明を行っております。
 - ・「D2」または「5」の方：結果説明を受けていただき、今後の方針を医師とご相談ください。
 - ・「D1」または「4」の方：脳神経外科をご受診ください。
- ※「A」「B」または「1」「2」判定の方は対象外となりますのでご注意ください。

実施日（月・火・金曜日）午前11：30

～ご注意ください～

結果説明は無料となっておりますが、診察・検査等の診療行為はございませんので、ご了承ください。

当日のご案内は診察等の兼ね合いで時間が前後する可能性があります。



医療法人社団哺育会 白岡中央総合病院 健診センター

電話番号 0480-93-0662（直通）

頭部MRI・MRA 頸動脈超音波検査所見ガイド

MRI検査（脳の断面の構造を見る検査です）

脳萎縮・脳白質病変

40～60歳代にかけて加齢による脳の形状変化がどなたにも現れます。脳萎縮・脳白質病変などがあげられますが加齢変化によるもので病的な異常所見とはなりません。ただし、比較的若くして加齢変化が高度の場合には脳卒中になりやすいといわれています。また、脳の萎縮だけでは認知症の診断はできず、通常のMRI画像ではわかりません。

脳梗塞

脳動脈が閉塞し血液が途絶えると脳細胞が壊死し運動・言語・感覚に障害が出現します。MRI検査では、陳旧性（過去に梗塞をきたしたもの）やラクナ梗塞（穿通枝という細い血管が詰まること）急性期梗塞（梗塞後間もないこと）などが判別できます。

脳動脈硬化

加齢による経年変化で完全に予防することはできませんが、生活習慣（食事・喫煙・運動）などの改善により進行を遅らせることができます。

MRA検査（脳の血管を調べる検査です）

脳動脈狭窄

動脈硬化によって脳動脈が狭くなる変化がわかります。脳MRAで早期発見し、重篤な脳梗塞を未然に防ぐことができます。

脳動脈瘤

動脈瘤（こぶ）を未破裂のうちに発見し治療することで死亡率の高い「くも膜下出血」を予防することができます。MRAでは3mm程度のごく小さな動脈瘤を発見することができます。

頸動脈超音波検査

総頸動脈肥厚

動脈硬化により血管の内壁が厚くなり、血液の通り道が細くなるので血流が悪くなります。

総頸動脈プラーク

血管内腔に限局的に出張った1.1mm以上の膨らみ（正常は1.0mm以下）です。動脈硬化を進展させないためには血圧・脂質・糖尿・喫煙などの注意が必要です。

その他 検査項目の説明

腫瘍マーカー検査

CEA

大腸がんなど、消化管の悪性腫瘍を中心に、広範囲のがんで検出されます。
喫煙・糖尿病・肝硬変・甲状腺機能低下症・腎不全でも軽度の上昇をすることがあります。

AFP

胎児幹細胞由来のタンパク質で、肝細胞がんが高値を示します。
肝炎・肝硬変でも軽度～中等度に上昇します。

CA19-9

膵臓・胆道がんをはじめ、消化管の悪性腫瘍で高値を示します。
喫煙・肝炎・膵炎でも上昇することがあります。

PSA

前立腺に特異な糖蛋白で、比較的早期のがんでも陽性率が高く、腫瘍マーカー検査の中で最もスクリーニングに有用な検査です。
前立腺肥大・前立腺炎でも軽度の上昇をすることがあります。

CA125

卵巣がんが高確率に高値を示します。子宮内膜症でも上昇します。

甲状腺検査

TSH・FT3・FT4

甲状腺ホルモンは、脳の下垂体から分泌される甲状腺刺激ホルモン(TSH)の作用によってその分泌が促進されます。
このホルモンが過剰になったり不足したりすると、甲状腺ホルモンにもその影響が見られるようになります。
この検査では、これらのホルモンの分泌機能に異常がないかを
FT3:遊離トリイオド サイトロン・FT4:遊離サイロキシンを併用して、その働きと異常(亢進・低下)を調べます。
バセドウ病などに代表される甲状腺機能亢進症は甲状腺腫で発見されることが多く
暑がり、動悸、体重減少、倦怠感、月経異常などの症状が現れます。
一方、甲状腺機能低下症では、むくみや便秘、食欲不振、寒がりなどの症状が現れます。

ABI検査

両手、両足首の4カ所の血圧や脈波を同時に測定します。
手と足の血圧の比較や脈波の速度を調べることで動脈硬化の程度を数値でみるができます。